

*** 今日の健康 (3月) *** < ヒトメタニューモウイルス感染症 >

世界保健機関 (WHO) は 2025 年 1 月 7 日、北半球での呼吸器系の感染症の流行に関する報告を公表し、熱やせきなどの症状が出る感染症で高齢者や乳幼児などが感染し発症すると重症化するおそれのある「ヒトメタニューモウイルス (human metapneumovirus: hMPV) 感染症」について中国で感染が増えていることが確認された一方、感染者の規模はこの時期に想定される範囲内だと明らかにしました。去年の終わりごろから中国で拡大していると地元メディアが伝えており、インドやインドネシアでも感染が確認されています。

日本においても 1～2 月中に例年より早い流行がありました。通常、国内では春から夏にかけて流行し、RS ウイルスと同様に、乳児と高齢者にも上気道および下気道に炎症を起こします。生後 6 ヶ月頃から感染がはじまり、2 歳までに約半数が感染すると言われてしています。

ヒトメタニューモウイルス (写真 1) は、2001 年にオランダで発見されましたが、すでに 50 年以上も前から呼吸器感染症の原因として存在していたことが報告されています。

潜伏期間：4～5 日

感染経路：飛沫感染と接触感染と考えられ、呼吸困難や脱水などの重症度に応じた対症療法が中心となります。症状が現れるまでこの期間は無症状のことが多いですが、潜伏期間中でもウイルスを排出して他の人に感染させる可能性があります。症状が現れる 1～2 日前からウイルスを排出し始め、症状が現れている間は特に感染性が高いとされています。

特徴：乳幼児や高齢者、免疫抑制状態の患者では、ウイルス排出が 1～2 週間以上長期化することがあり、発症すると重症化することがあります。感染後の免疫は獲得しづらいため生涯免疫にはならず何回も感染することがわかっています。

症状：RS ウイルス、インフルエンザ等の呼吸器感染症と似ています。小児や基礎疾患のある患者、高齢者では重症化するリスクがあります。高熱、咳、鼻水、のどの痛み、などの軽い症状から、喘鳴、呼吸困難、気管支炎、肺炎などの中等度以上の症状までさまざまです、乳幼児では急性細気管支炎になることが多いです。

予防対策：手洗い、アルコールでの手指衛生、咳エチケット (マスクの装着。咳やくしゃみをする際は、ティッシュや肘で口を覆う。)、感染者との密接な接触を避ける。室内の空気を定期的に入れ替える。マスクの着用 (症状がある場合や人混みに行く際には着用)

治療：治療薬や予防ワクチンはなく症状を抑える対症療法が基本となります。重症化リスクがある方で、呼吸困難や高熱が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861
天文台通り もみじ山公園バス停裏

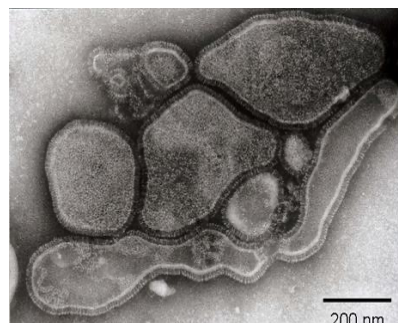


写真1. ヒトメタニューモウイルスの電子顕微鏡写真
(大阪市立環境科学研究所撮影)

*右下の黒い線の長さは200 nm (1 nm = 100万分の1 mm)